

魚沼漁協だより

NO. 72

平成26年1月15日

発行 魚沼漁業協同組合
組合長 皆川 雄二

魚沼市佐梨 1105-16
TEL (025) 792-0261

その一番の課題である、大河津分水野積地内の第二床固の魚道改修を国土交通省北陸地方整備局長に要望し、同局河川部の入江靖部

組合長を担って二年目を迎えた今年度は、組合員からの要望事項実現に向け、多くの課題に取り組んで参りました。

この他にも、三国川及びこの合流点から下流の魚野川では殆ど釣り人の姿が見られないなど、三国川ダムからの白濁した放流水が原因ではないかと懸念しています。あゆ漁においては昨年在り豊漁であった分、結果的に寂しい年となりました。

当魚沼漁業協同組合管内でも大雨や台風による河川の氾濫、土砂崩れ、地すべり等の土砂災害が多発し、平成二十三年の新潟・福島豪雨による災害に追い打ちをかけるかのよう七月の破間川の洪水、台風十八号、二十六号による度重なる大雨はあゆ漁、さけ・ますの一括採捕に大きな被害をもたらしました。

国内はもとより、とりわけ台風三十号の来襲によって甚大な被害を受けたフィリピンの被災者に心からお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧を祈つてやみません。

平成二十五年は気象が荒く、漁業者にとっては厳しい条件でありました。特に夏には全国各地で記録的な猛暑となり、ゲリラ豪雨や竜巻も多発し大きな被害をもたらしました。



新年あけまして おめでとうございます

代表理事組合長 皆川 雄二

長から「大河津分水路の改修に伴い、遡上が困難な副堰堤と第二床固の魚道改善を行う」などの改修方針を示していただきました。



また、平成二十三年十月に完成した新可動堰を使って、六月に「あゆ」が遡上できるように水量調整の試験運用を実施いただける旨回答をいただき、この結果、河口付近の堰堤に設けてある魚道で、あゆの稚魚が群れをなして遡上しているのが確認されました。

三国川ダムの白濁水放水による魚類への影響についても同局長、管理所長に対し組合員、遊漁者の切実な要望を伝えており、新しい年度には具体的な対策が講じられるよう一生懸

命取り組んで参ります。

ピーク時にいた組合員は六千人を超えていましたが、今では三千人程度となり、組合の経営状況は一層厳しいものがあります。

県内には二十六の内水面漁業協同組合がありますが、組合員数が百人未満の組合が三割近くを占め人口の減少、趣味の多様化の中、残念ながら組合員の減少には歯止めをかける事ができません。

組合員の確保と、遊漁者の獲得には魅力ある組合をつくる必要があります、このためにはタイムリーな釣り情報、河川状況の提供が重要である事から、年間五万回のアクセスがあるホームページを更に充実するため「情報活用検討委員会」を立ち上げ、熱心に取り組んでいただいた結果、今年の一月初日からホームページを一新し、広い管内の状況をできるだけ早く、正確に提供するため組合員からの情報提供をいただき、「見やすく・更新しやすいホームページへの切り替え」をモットーに、河川状況を把握したい時は国土交通省のライブカメラへアクセスが出来るようにプログラムしていただきました。有効に活用いただき釣果の向上に繋げたいものです。

また、外来害魚、カワウによる捕食被害も相当大きなものがあると考えています。

多額の経費をかけて放流しても、この結果が釣果に結び付かず、ひいてはこれが組合員離れや遊漁者の減少の一因であることから、これも大きな課題であり猟友会や組合各支部から駆除にご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

課題は山積しておりますが全力で解決に取り組んで参りますので、皆様方のご協力をよろしく願います。